

環境産業委員会会議録

- 1 期 日 平成28年3月22日(火)
- 2 会 場 第1委員会室
- 3 開会時刻 22日 午後 1時51分
- 4 閉会時刻 22日 午後 2時16分
- 5 出席者
- | | | | |
|-----|-------|------|-------|
| 委員長 | 榛葉 正樹 | 副委員長 | 雪山 敏行 |
| 委員 | 竹嶋 善彦 | 委員 | 鈴木 正治 |
| 委員 | 堀内 武治 | 委員 | 高木 敏男 |
| 委員 | 大石 勇 | 委員 | 大場 雄三 |
- (当局側出席者) 副市長、環境経済部長、都市建設部長、環境経済部付参与
都市建設部参与、企画政策部長、所管課長ほか
- (事務局出席者) 庶務係 兼堀裕之
- 6 審査事項
- ・議案第71号 平成27年度掛川市一般会計補正予算(第8号)について
 - 第1条 歳入歳出予算
 - 歳入中 所管部分
 - 歳出中 第6款 農林水産業費(第1項2目のうち所管外部分)
 - 第2条 繰越明許費
- 7 会議の概要 別紙のとおり

以上のとおり、報告いたします。

平成28年3月22日

市議会議長 竹嶋 善彦 様

環境産業委員長 榛葉 正樹

7 会議の概要

平成28年3月22日（火）午後1時51分から、第1委員会室において全委員出席のもと開催。

- 1) 委員長あいさつ
- 2) 当局（副市長）あいさつ
- 3) 付託案件審査

①議案第71号 平成27年度掛川市一般会計補正予算（第8号）について

第1条 歳入歳出予算

歳入中 所管部分

歳出中 第6款 農林水産業費（第1項4目のうち所管部分）

第2条 繰越明許費

第6款 農林水産業費

〔お茶振興課、説明 13:55～13:57〕

〔質 疑 13:57～14:15〕

●石山雅久お茶振興課参与 説明

○榛葉正樹委員長

<質疑>

○高木敏男委員

海外戦略について、マーケット調査の中に、登録商標もしっかり調査して欲しい。海外では、日本名を登録している業者もいる。間違いなく掛川茶も世界に通用するブランド品として、登録商標を検討して欲しい。

●石山雅久お茶振興課参与

商標登録については、国内では掛川茶と東山茶となっている。海外では、輸出先において登録するか判断することになるが、掛川茶として、世界に通用するものと考えている。しかし、海外において、日本茶として輸出しているので、今後の輸出戦略のなかで、当然検討し、それぞれの輸出策で登録した方が良いのか、掛川茶としていくのかは検討していきたい。

○雪山敏行副委員長

T P P 関連の予算で、国と県も同じようなことをやるが、連携はどのように考えているのか。

●石山雅久お茶振興課参与

今後タスクチームを結成して、県と国との連携を図っていきたい。具体的なメンバー構成も含めて今後検討していきたい。

○雪山敏行副委員長

多分同じような市場調査も行っていくとおもう。その辺を連携しないと同じような調査をやることになる。しっかり連携して欲しい。

○雪山敏行副委員長

関係市町村との連携について、茶草場農法は掛川市だけではないので、その部分も含めて考えて欲しい。

●石山雅久お茶振興課参与

近隣市との関係は、産地間競争もあり、今回の戦略については、掛川市として考えていきたい。茶草場は広域で実施しているが、掛川市が大部分を占めているので、先導してやっていくという考えである。

○雪山敏行副委員長

市場調査について、マーケティングはEUと北米ということだが、どのような現地調査でどのような市場調査を行うのか。

●石山雅久お茶振興課参与

具体的には決まっていないが、今考えているのは、どのようなお茶が好まれるのか、それに基づき、どのようなお茶を生産していくのか。現地で、どのようなお茶が飲まれているのか。考えているのは、ミラノ万博で関係が出来た、ペーザロ市を中心にEUに波及させたい。アメリカではユージン市との連携補図っていききたい。

○雪山敏行副委員長

ペーザロ市は緑茶を飲んでいない。例えば、フランスやドイツの市場調査は実施しないのか。

●石山雅久お茶振興課参与

足がかりとして、ペーザロ市を基本として、そこからドイツを含めたEU圏内に波及できればと思う。予算や人的な問題も含めてチーム内で検討していききたい。

○雪山敏行副委員長

単年度年度の事業なのか。

●石山雅久お茶振興課参与

単独事業である。28年度に実施する。

○雪山敏行副委員長

かなり方針を明確にしていかないと、ペーザロ市だけで良いのか、それ以外まで波及させるのかは大きな問題である。しっかりとした戦略をお願いしたい。調査は現地調査も考えていくのか。担当部署が現地調査をするのか。

●石山雅久お茶振興課参与

はっきり行くか行かないかを回答出来ないが、できればタスクチームの中から調査に行って欲しいと考えている。

●伊村副市長

全額補助の交付金だから出来る調査だが、議員の言ったように、国も県も実施する中で、同じ事をやっても掛川茶売れるとは思っていない。原点は、アメリカはコーニングもあり、韓国はへんそんぐんも深い交流となり、4月から職員も派遣する。それぞれの地区がどのようなお茶を好んで飲んでくれるのか。日本の煎茶をどのような位置づけにしているのかを、ゆかりのあるところから調査する考えとした。そうしないと、マーケティング会社に全て依頼すると、国や県と同じ結果になると思う。例えば、ユージンの市役所に協力してもらい、地域に深く入り込んで調査する。今回のマーケティングやマネジメントの重要な点は、ゆかりのあるところ、踏み込んだ調査を行い、単純な調査ではない。そこまでやっていききたい。石山参与から、お茶の場合は日本茶のブランドではないと、厳しいのではないかという話があったが、ゆかりの地だけは、掛川茶でいけないかと思っている。その可能性も全く分からない部分もあるが、その辺を中心に進めていききたい。姉妹都市を前提として、交流活動も合わせてやってかなければ、いけないと考えている。

○雪山敏行副委員長

アウトプットの部分で、掛川茶輸出戦略計画を年度内に作るという理解で良いか。石山参与、今年度、茶業振興計画の策定も合わせてやっていくので、その中で、輸出戦略も計画して、反映させていききたいと思っている。

○堀内武治委員

互産互消推進事業について、具体的に煮詰めるのは難しいと思うが、ここに記載のある地域

商社設立の目処や規模の説明と、商社の事業構想等について説明して欲しい。

●伊村副市長

現実に事業として成り立たせるのは大変な努力とリスクがあると思っている。そこで、最も会社運営したときに大変な状況は、社員を雇用して、経営が回らないことであるので、市で考えているのは、これっしか処が第3セクターなので、関連子会社を作ってもらい運営していくことを考えていきたい。まだ、第3セクターに相談した訳ではない。社員も最小の人数で、尚且つ兼任の社員などで極力固定費が掛からないように回避していく。大きな狙いは、地域間の交流をしながら、国内のお茶をさらに売り込んでいく。また他の特産品も売り込んでいくことを考えていく。ルートはこれっしか処や市内にはこの辺のお茶を北海道に持って行って売ることを行っている所があるので、その辺と連携し、地域商社を実施していこうと考えている。会社設立費用の80万円は盛り込んでいるが、資本金には市は出さないで、民間にお願いしている。夏前までには会社を設立し、活動を始めたいと考えている。

○雪山敏行副委員長

マーケティングのターゲットとする年ほどのくらいを考えているのか。扱う物はお茶しかないのか。

●伊村副市長

掛川市から持ち込む物は地域の特産品なら何でも良い。飛び込みで行っても上手くいかない。これまでゆかりのある自治体に絞る
例えば、塩の道が糸魚川まであったり、一豊&千代サミットを実施した所、報徳サミットを実施している所、茶文化プロジェクトを実施している所、へんそんぐんの八頭町など、ゆかりがあって市長や職員が必ず繋がっている所と実施して、さらに言うと岩手県はお茶の広めたいで2、3回伺っている自治体もあるので、そこから紹介してもらい広めていきたい。ある程度、1つの県なりで、向こうの物がまとまると、それを1つのパッケージにして、デパート等に売り込んで行くとビジネスになる事も確認している。いろんな物を発掘しながら、東京、大阪などの大都市をターゲットではなく、地方間が結びついて、それを情報発信して見に行ってもらような仕組みにしていきたいと思っている。

○雪山敏行

実際として、大都市圏も非常に大事だと思う。いろんな市町村が、東京のある区との交流などもやっている。そのことも視野に入れて、本格的に考えて欲しいと思う。

○榛葉正樹委員長

以上で質疑を終了する。

〔討 論〕なし

〔採 決〕

議案第71号 平成27年度掛川市一般会計補正予算（8号）については
全会一致にて原案とおり可決

5) その他 なし

○榛葉正樹委員長

以上で委員会を終了する。

閉会 午前14時16分